

実質化された人・農地プラン(案)

[注:本様式は参考ですので、地域の話合いの結果に応じて、積極的に記載する項目を追加してください。]

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
富士宮市	富丘地区	令和5年3月16日	令和6年3月11日

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	197.75	ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	197.75	ha
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	143.09	ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	57.46	ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0.33	ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	14.60	ha
(備考) ・富丘地区の内訳(地区内集落名):安居山、大中里、外神、宮原、淀師、青木地区。		

注1:③の「〇才以上」には、地域の実情に応じて、5~10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

本地区は、市街地に隣接した平坦地にあり、水田地帯と畑地帯からなる。これまで、県営畑地帯総合整備事業(外神地区)や団体営土地基盤整備事業(青木地区)等が行われているが、未整備で小区画不整形の水田が残り、流動化が進まず、遊休化した農地も多く残っている。

注:「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

畑地帯にはイチゴをはじめ施設野菜が多く栽培されており、6次産業化を志向する中心経営体が存在する。また、JAファーマーズマーケットなどへ出荷する中心経営体も多数存在する。今後は、農道、用排水路など整備事業の維持・補強とともに、6次産業化の支援に取り組み、農地の利活用を促進する。

注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

今後は、区画整理・用排水路整備・農道整備等に努めるとともに、中間管理事業を積極的に推進による担い手への農地の集積・集約化による規模拡大等を進め、生産性の向上と経営の安定化を図っていく。あわせて6次産業化に向けた取り組み支援も行う。また、有機農業への支援も推進していく。

(留意事項)

本様式をそのまま公表様式として活用する場合には、中心経営体の氏名等特定の個人が識別される情報が含まれることから、本人の同意を得る等個人情報保護条例等に抵触しないよう留意してください。

なお、本人の同意が得られない場合には、その方の氏名を伏せるなど、個人が識別されないよう留意してください。